



「難病の子どもの夢をかなえるお手伝い」

『メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン』という名前を聞いたことがあるでしょうか？

「メイク・ア・ウィッシュ」とは「願い事をする」という意味で、難病と闘う子どもたちの夢をかなえ、生きる力や病気と闘う勇気をもってもらいたいと願って設立された世界的なボランティア団体の日本支部です。

夢の実現にあたっては、あくまでも本人が主役であり、団体はそのサポートをすることです。そんな『メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン』で事務局長をしておられる大野寿子さんを「ほっと・ぼらんていあ」にゲストとしてお招きしてお話を聞くことができました。



大野寿子さんの講演を聞いて

大野寿子さんのお話を聞くのは2回目ですが、その度に深い感動に身動きが取れない気持ちにさせられます。「ディズニーランドへ行きたい」「ウルトラマンプレートとたたかいたい」「有名な野球選手に会いたい」など夢は普通の子といっしょです。

運動機能がだんだん失われていく治療がないような病気、治療の難しい小児がん、命の灯火が今にも消えそうな子どもたちと関わっていくというのは、とてもつらい事と思ってしまうがちです。お話と一緒に何人かの様子をビデオで見せていただいたのですが、どのお話も切なく胸がつぶれそうになります。それでも、画面の中で子どもたちは本当にいい顔をしていました。その子の夢をかなえるために、たくさんの周りの人たちのお手伝いの様子も映像からうかがえます。

難病の子を連れ出すのは難しいことがたくさんあるとのことですが、夢をお手伝いできた喜びを贈られたのは、むしろ周りの人達だったかもしれません。難病の子らは決して小さな存在ではなく、目に見えない大きな力を持っているのだと教えられました。

それはメイク・ア・ウィッシュの活動が、単に《楽しい思い出をつくってあげましょう》とか《何か大きなプレゼントをあげよう》というのではなく、夢をあきらめない子どもたちの心を真ん中に据え、「夢は自分がかなえたんだ」という気持ちを持ってもらえるように気遣ってきたからだと思います。

夢や希望はどこか遠くにあるのではなく一歩踏み出す「今」にあるのだと、笑顔の中に厳しくも感銘深いお話しでした。

ボランティアスタッフ：市田由紀子

大野さんは、たくさんの方にこの活動を知ってもらい、難病の子どもたちの夢の実現のお手伝いをしたいということでした。お手伝いできた夢の一例として「白砂の上で遠山の金さんにお裁きを受けたい」「自分の絵本の出版をしたい」「本物のジャンボ機のコックピットに乗りたい」などがあります。今回、この「ふくろう通心」を手にとられた方は、このようなボランティアがあるということをぜひ周りの方に伝えていただきたいなと思います。



ボランティア体験

第2回弘前城リレーマラソンボランティアに参加して

ひろさき健幸増進リーダー 森山洋子

私がこのボランティアに参加した理由は2つです。スポネット弘前のメンバーで、ひろさき健幸増進リーダー同期の方からのお誘いを受けた事と、所属しているクラブの方々の勇姿が見られると思ったからです。

担当したのは、「ひろさき健幸リーダーとしてのラジオ体操のリード」と「リレーマラソンのボランティアスタッフ」の2つです。準備からかたづけまで終日テント内の活動でしたので、リレーは見る事が出来ませんでした。2000人の前での体操は緊張しましたが、津軽弁で号令をかける人と勘違いされ緊張も解けました。

マラソン参加人数は2017人で3歳～78歳まで、平均年齢は35歳。

ボランティア人数は185人で7歳～81歳まで、こちらも平均年齢は35歳でした。

昨年のマラソン募集人数は1000人で、今年は2倍なのでボランティアスタッフの確保は大変だったと思います。皆さん怪我もなく無事終了できて良かったです。

将来は、弘前市開催のスポーツの準備体操に、弘前大学推進の“あつぷるストレッチ”“あつぷる体操”を披露できたらいいなと思いました。

ボランティア活動は、少し大変でも挑戦したら出会いと喜びがあります。



「世界の子どもたちにワクチンを」というキャッチフレーズで、2～3年前まではたくさんの方がエコキャップ(ペットボトルのふた)を集めていたのではないのでしょうか。捨てられるだけのキャップがワクチン接種の資金になり、CO2削減にもつながるということでした。(ワクチン1人分が20円:約850個で1人分)

エコキャップ活動は今でも行われているのかしら？



最近あまり活動について耳にしなくなりましたが、中には地道に活動を続けている団体もあるようです。

※ペットボトル飲料のキャップのシールをはがし、汚れているものは洗浄して、金属製のキャップは混ぜないで頂ければということです。

持ち込み先として、身近な所では社会福祉協議会(宮園2丁目8-1 Tel.33-1161)があります。



豆知識

弘前市内や近隣市町村ではなじみ深い「あさか餅」ですが、大福餅と同じように全国で食されていると思っていたのは私だけでしょうか…

実は、津軽地方にしか存在しない餅なのです。表面にトッピングされているのはもち米を炒ったもので、餅にもち米をまぶすというユニークさ。まさに稲作文化から生まれたソウルフードです。

起源は、諸説あるようですが、**あさかのみや** (あさかのみや 朝香宮: 明治後期宮号を賜り、昭和22年皇籍離脱)に献上したとか…

同じ「あさか餅」でも、もち屋さんのこだわりがあるので食べ比べてみるのも楽しいですね。



編集後記

4月から市民参画センターに採用になりました、水口です。採用になってから早2か月、まだまだ手探り状態で日々過ごしております。よろしくお願いいたします。

最近蒸し暑くなってきて、アパートの共有スペースが虫だらけになってきました。まずは身近なところからボランティアを始めようと思い、率先して掃除しています。

しかし出来ればやりたくないのが本音で、これではボランティアとは言えないような？

ボランティアの概念探しはまだ始まったばかりです。



<製作>市民ボランティアスタッフ<製作協力>弘前市ボランティア支援センター036-8355 弘前市大字元寺町1-13 弘前市民参画センター内
TEL:38-5595 FAX:36-1822
HP: <http://www.hi-it/vsc>

情報紙についての意見・感想をお待ちしております。